

東日本大震災
復興の歩みフォト&スケッチコンテスト2019
作品集
～東北の「いま」を伝える～

東日本大震災
復興の歩み
フォト&スケッチコンテスト 2019
作品集
～東北の「いま」を伝える～

街に、ルネサンス



UR都市機構



一日も早い東北の復興へ
全力で取り組んでいます

ごあいさつ

東日本大震災から9年を迎えました。

UR都市機構は、発災直後から被災地へ職員を派遣し、復旧・復興支援に取り組んでまいりました。

「東日本大震災 復興の歩みフォト&スケッチコンテスト」は、新たな住まいでの生活や、なりわい再建の様子、まちづくりの現場、まちに戻ってきた活気、震災後も変わらない四季折々の風景など、皆様が復興を感じる場になればという思いで始まり、今回で6回目の開催となりました。

今回、テーマを『東北の「いま」を伝える』とし、復興へ歩むまちや暮らしの風景と、皆様の復興への想いが込められた作品を全国から多数お寄せいただきました。

当コンテストがその想いを多くの方々に伝えることができたら幸いです。

多くの皆様からのご応募に、心からお礼申し上げます。

目次

UR都市機構の復興支援	04
フォト&スケッチコンテスト概要	08
審査員プロフィール 総評	10
受賞作品・応募作品の紹介	13
▪ 復興の歩み大賞	14
▪ 復興の歩み賞 （池邊このみ・大西みつぐ・なかだえり・西田司・UR理事長・UR都市機構選）	16
▪ キッズ・ジュニア賞	28
▪ 入賞	30
▪ 応募作品	38
審査の風景	42

-
- 受賞者および有識者審査員の敬称は省略させていただいております。
 - 受賞作品の紹介内容は原則下記の順で掲載しております。
 作品タイトル／氏名／撮影・スケッチの対象場所（県、市町村）／メッセージ
 - 応募作品はトリミング加工の上、掲載しております。

UR都市機構の復興支援

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は未曾有の被害をもたらしました。

UR都市機構はUR賃貸住宅や応急仮設住宅建設用地の提供、応急仮設住宅建設のための職員派遣など発災直後から支援を開始。

続いて、被災自治体における復興計画策定支援等のため職員派遣を行いました。

現在、25の被災自治体と協定等を締結し、復興まちづくりの支援を行っています。

復興支援MAP ※令和2年2月までの実績

- 震災復興支援本部
- 復興支援事務所を設置する自治体
- 復興まちづくりを支援する自治体



岩手県 下閉伊郡 山田町
町営山田中央団地



岩手県 大船渡市
防災観光交流センター



宮城県 牡鹿郡 女川町
町営大原住宅



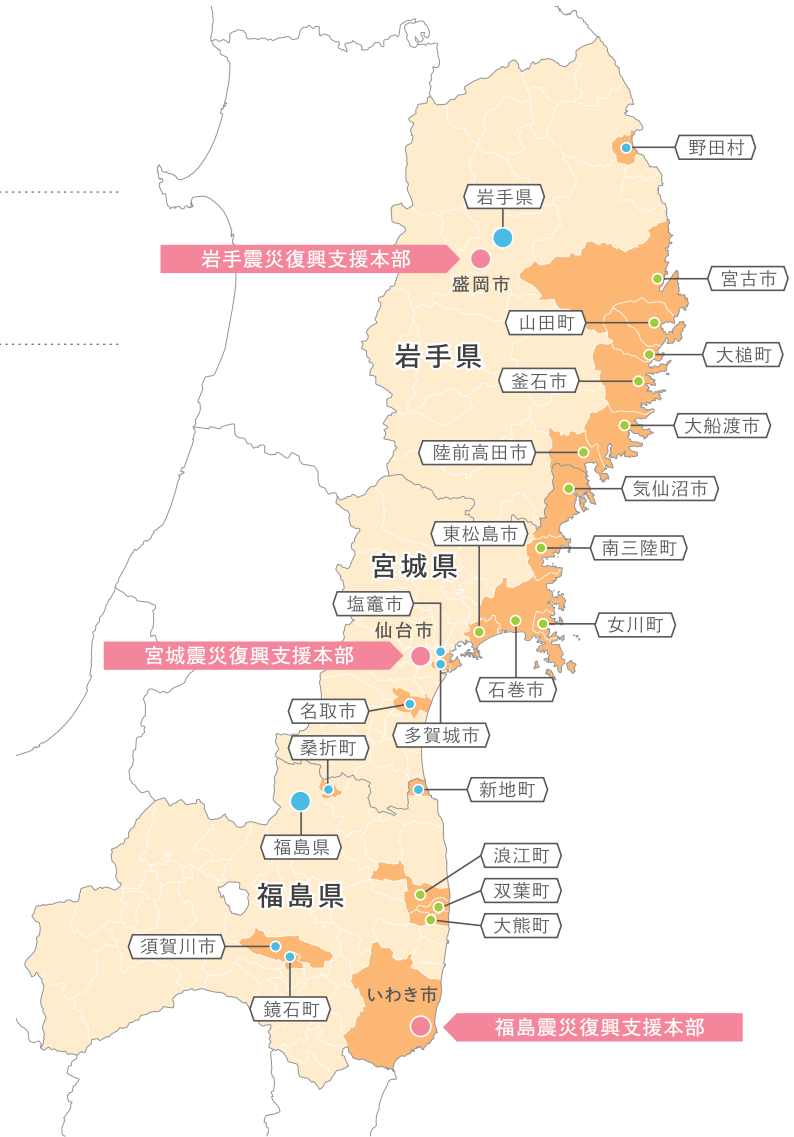
宮城県 東松島市
野蒜北部丘陵地区



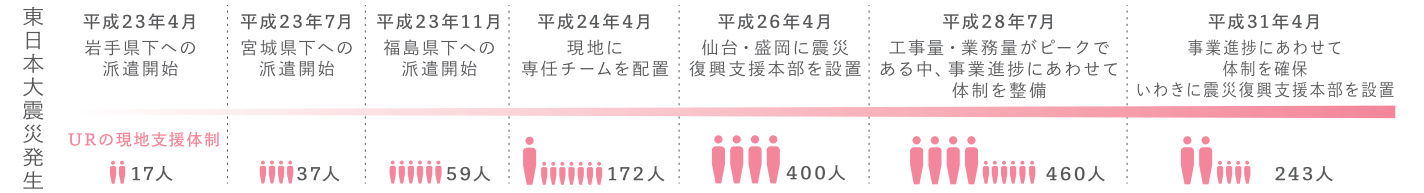
福島県 いわき市
豊間地区



福島県 いわき市
県営北好間団地



復興まちづくり支援の歩み



いわきニュータウンに建設された
応急仮設住宅

復旧支援

UR賃貸住宅延べ970戸の提供
応急仮設住宅建設用地約8haの提供
延べ184名の技術職員を派遣

復興計画策定支援等

1県18市町村に延べ67名の技術職員を派遣



権利者約1,800人を対象に
約50回の住民説明会等を実施
(宮城県牡鹿郡女川町)

協定締結

25の被災自治体との間で、
復興まちづくりを推進する
ための覚書・協定等を締結



大量土の搬出のため設置された
ベルトコンベア[平成27年9月作業完了]
(岩手県陸前高田市)

事業計画策定

住民説明会や個別面談を通じて住民
の方々の意向を確認し、個別地区の
事業計画を作成覚書・協定等を締結

体制づくり

沿岸部の15市町に現地復興支援事務所を設置



南三陸さんさん商店街開業
[平成29年3月開業]
(宮城県本吉郡南三陸町)

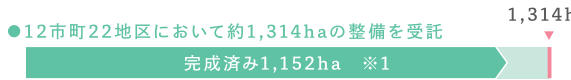
復興まちづくり事業の推進

被災自治体から委託を受け、
事業を推進
技術力やノウハウを活用し、復興まち
づくりを着実に進捗

※令和2年2月時点

津波被災地域における復興市街地整備事業

土地区画整理事業、防災集団移転促進事業などにより、被災した市街地の嵩上げや高台新市街地の整備などを行います。UR都市機構は被災自治体より委託を受け、計画策定から工事発注・監理までフルパッケージで事業を進めています。



※1 平成31年3月末時点
※2 令和元年9月末現在における見直し(令和元年11月15日復興庁公表「住まいの復興工程表」、各県HP及びUR調べをもとに作成)

福島県の原子力災害被災地域における取組み

大熊町・双葉町・浪江町の復興拠点の事業受託のほか、公的施設の発注者支援、地域再生に向けたソフト施策の支援等をあわせて総合的な支援を実施しています。

災害公営住宅整備事業

被災により住まいを失われた方、原子力災害により避難を余儀なくされている方のための公営住宅を整備します。UR都市機構は被災自治体からの要請により、住宅を建設、完成後に自治体へ譲渡します。





[女川駅前レンガみち周辺]

宮城県女川町の復興まちづくり

UR都市機構は、復興まちづくり事業の担い手として、甚大な被害を被った被災地方公共団体の一つである女川町とパートナーシップ協定を締結。

被災市街地の嵩上げによる安全なまちの整備、住まいの高台移転、災害公営住宅の建設等による町全体の復興を包括的・総合的に支援しています。



[大熊町新庁舎]

福島県大熊町の復興まちづくり

UR都市機構は、東京電力福島第一原子力発電所事故により、一時、町全体が避難指示区域となった大熊町で、復興まちづくりの支援を実施。

復興拠点の整備事業のほか、公的施設の発注者支援や計画・構想策定支援業務等の地域再生支援等を実施し、大熊町の復興まちづくりをハード・ソフトの両面から一体的に支援しています。

女川中心部における復興まちづくり支援



発災後（2011年4月撮影） 提供：女川町

- 高台の造成や嵩上げをした地域に住宅地を集約し、安全性を確保
- 低地部は商業・業務、観光業及び水産業に活用
- 行政機能などを中心部にコンパクトに配置



都市景観大賞受賞（都市空間部門）

平成30年度の都市景観大賞（※）の都市空間部門で

「女川駅前レンガみち周辺地区」が、最高賞である大賞・国土交通大臣賞を受賞。

※「都市景観の日」実行委員会主催で、良好な景観の形成に資する普及啓発活動の一環として平成3年度から毎年度実施されている表彰制度



提供：女川町

元日の日の出の方角に向けて、駅前地区から女川湾を一直線につなぐ「レンガみち」は、震災復興により新たに生まれ変わった女川町のシンボル空間であり、商業・業務、公益、公共機能が集積するにぎわい拠点となっています。



2019年10月撮影

大熊町大川原地区における復興まちづくり支援



大川原地区サイトプランイメージスケッチ

- 町民帰還のための新たな拠点の基盤整備を行う一団地の復興再生拠点市街地形成施設事業を町から受託
- 大川原地区は平成31年4月に避難指示が解除され、町役場新庁舎が開庁、令和元年6月には災害公営住宅が入居開始
- 令和2年以降の福祉施設開業、交流ゾーン開業を目指し、順次用地の引渡しを実施
- 町役場新庁舎・福祉施設・交流ゾーンについてはURが発注者支援を実施 また福祉施設における運営体制構築の支援にも取組む



大川原地区航空写真（2019年10月撮影）



大熊町新庁舎内部



福祉の里就労紹介パンフレット

フォト & スケッチコンテスト概要

・開催概要について

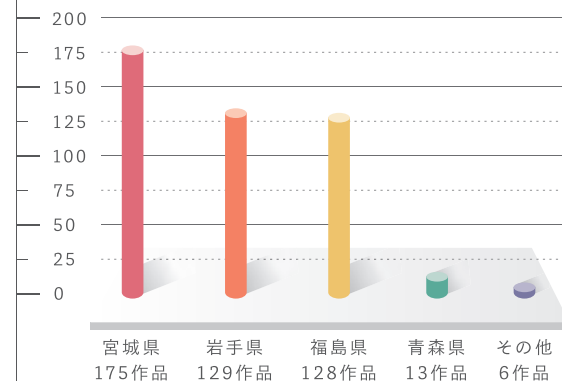
「東日本大震災 復興の歩みフォト&スケッチコンテスト2019～東北の「いま」を伝える～」は、復興への歩みを広く発信することで被災地の復興を支援するために開催しました。

応募作品は、復興を感じる場面を題材とした写真、またはスケッチとし、皆様の被災地や復興に対する想いを、タイトルとメッセージで表現していただきました。応募資格は、できる限り多くの方々に参加していただくため、被災地にお住まいの方だけではなく、被災地を訪問された方やゆかりのある方などすべての方を対象としました（プロの写真家や画家の方を除く）。約3ヵ月の募集期間を経て、210名の皆様から、451作品（フォト422作品／スケッチ29作品）のご応募をいただきました。その中から、4名の有識者審査員（以下、審査員）による審査とUR職員投票により、復興の歩み大賞1作品 復興の歩み賞6作品 キッズ・ジュニア賞2作品 入賞14作品を選出しました。なお、審査過程では作品の応募者名を無記名とし、写真やスケッチの内容に加え、タイトルとメッセージを含めた総合的な評価をさせていただきました。

・スケジュール

2019年8月20日～ 2019年11月15日	作品募集期間
2019年11月～12月	応募作品の審査 [UR職員投票審査・有識者審査]
2019年12月25日	審査結果の発表

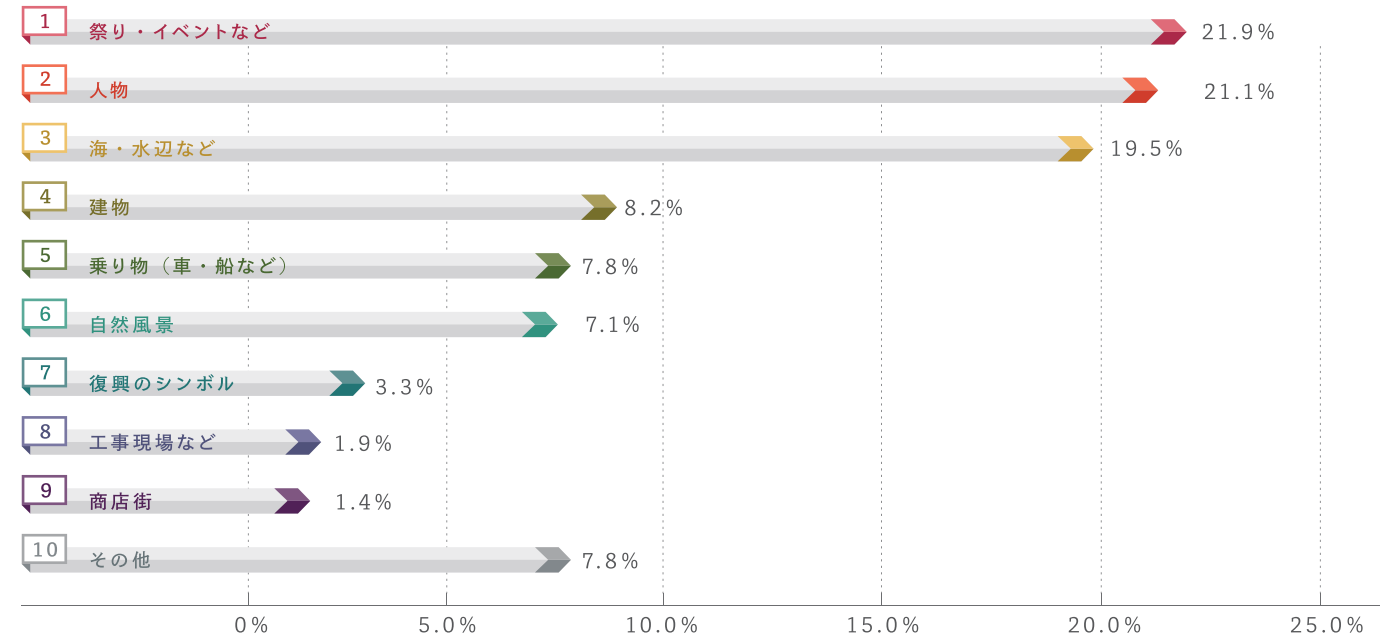
・県別応募作品数（撮影・スケッチの対象場所）



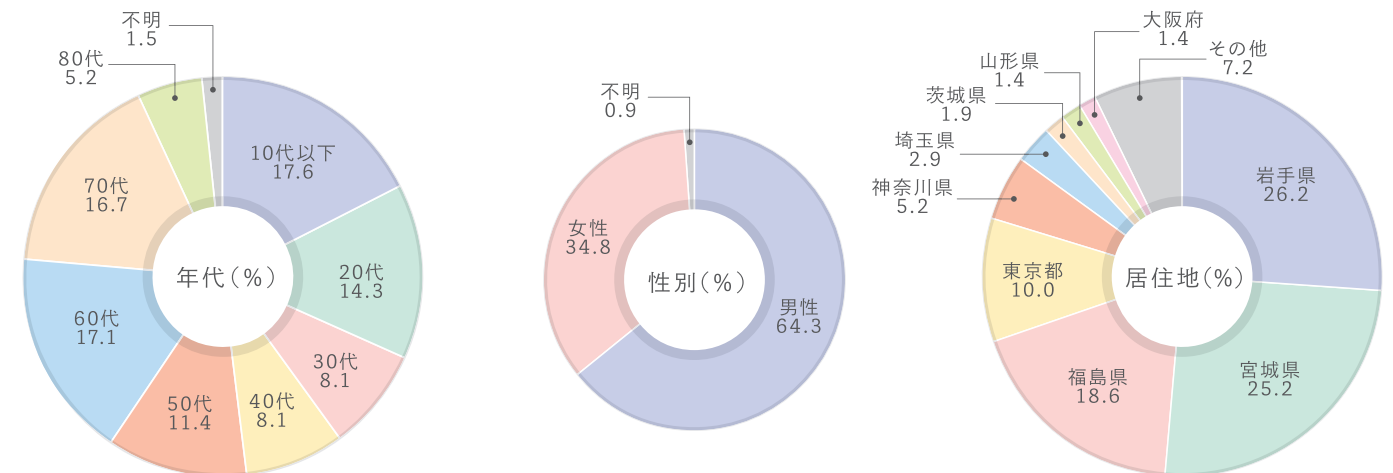
・撮影・スケッチの対象として多く選ばれた場所

所在地	作品数
福島県いわき市	41 作品
宮城県石巻市	39 作品
岩手県釜石市	23 作品
宮城県仙台市	23 作品
宮城県気仙沼市	21 作品
宮城県東松島市	20 作品
岩手県宮古市	20 作品
岩手県久慈市	19 作品
福島県双葉郡富岡町	18 作品
宮城県牡鹿郡女川町	17 作品

・応募作品の分類



・応募者の属性





■ 池邊 このみ氏 [ランドスケーププランナー]

千葉大学大学院教授、専門は造園デザイン学。千葉大学大学院博士課程修了、住信基礎研究所、ニッセイ基礎研究所等をへて、現職。2007年より3か年、UR都市機構の都市デザインチームリーダーを兼務。学術会議連携会員、国土交通省社会資本整備審議会委員、文化庁名勝部門審議委員、国土交通省景観賞審査委員、陸前高田市文化財保全活用調査委員長、高田の松原復興祈念公園構想会議委員、都市景観大賞審査委員、都市公園コンクール審査委員等を務める。



■ 大西 みつぐ氏 [写真家]

東京総合写真専門学校卒業。1985年「河口の町」で第22回太陽賞、1993年「遠い夏」ほかにより第18回木村伊兵衛写真賞受賞、江戸川区文化奨励賞受賞。1970年代から東京の下町を拠点として撮影活動を続けるほか、大学や専門学校などで若い世代を指導、また各カメラ雑誌において記事執筆、月例コンテスト審査員を歴任するなど写真愛好家へのアドバイスも積極的に行っている。日本写真協会、日本写真家協会会員、ニコールクラブ顧問、大阪芸術大学客員教授。



■ なかだ えり氏 [イラストレーター]

日本大学生産工学部建築工学科卒、法政大学工学部建築学科修士課程修了。フリーランスでイラスト、執筆、建築設計など多分野で活動中。東京・千住にて築200年の「蔵」をアトリエとしてきたが、2013年より元スナックをリノベーションした建物に拠点を移す。千住の古い建物を活用する活動に参加。著書に「大人女子よくばり週末旅手帖」（エクスナレッジ／2015年）、「駅弁女子～日本全国旅して食べて」（淡交社／2013年）、「奇跡の一本松～大津波をのりこえて」（汐文社／2011年）など。「奇跡の一本松」は平成27～31年度の小学校の道徳の教科書に掲載。



■ 西田 司氏 [建築家]

1976年神奈川県生まれ。使い手の創造力を対話型手法で引き上げ、様々なビルディングタイプにおいてオープンでフラットな設計を実践する設計事務所オンデザイン代表。東京理科大学、日本大学、京都造形芸術大学非常勤講師、大阪工業大学客員教授。「ヨコハマアパートメント」で、JIA新人賞／ヴェネチアビエンナーレ日本館招待作品・審査員特別表彰、「ISHINOMAKI 2.0」で、グッドデザイン復興デザイン賞／地域再生大賞特別賞、島根県海士町の学習拠点「隠岐国学習センター」など。著書に「建築を、ひらく」。

■ Konomi IKEBE [Landscape planner]

今年から「フォト&スケッチコンテスト」というタイトルに変えましたが、応募作品がレベルアップしたことに驚きました。うれしい悲鳴という感じです。特に、最初にイラストを見た時点で、イラストの半分くらいは受賞作品の候補だなという感じがありました。それと今年は、『東北の「いま』』を伝えた応募作品の中で、開通したばかりの鉄道の作品や馬追の作品、実際の生業の作品も多数あり、以前よりも幅広くなったと感じました。数年前までは、復興の槌音が聞こえるというような生業の音でしたが、普段の生活の生業の音は、毎日繰り返されているなかで聞こえてくるもので、まさに、復興の歩み賞「大漁 パパの約束」は、「パパ行ってくるよ」「パパ行ったらっしょい」と言っている声が聞こえてくるようです。

北上川の生態系も、ようやく豊かになってきて、もともとあったヨシ原の風景がたおやかに戻ってきている。その風景の、ひなびているけれど温かいという感じを、夕日だけあえて墨絵のような形で伝える作品もありました。震災から8年が経ちましたが、皆さんの生活が自然に戻ってきたなということを改めて感じさせるコンテストだったかと思います。

■ Mitsugu OHNISHI [Photographer]

全体的な印象としては、「復興の歩み」というものが強く見て取れる写真やスケッチだったと思います。上位に入賞した作品は、距離感で言うと、近距離から中距離くらいの我々の暮らしの風景が多いと思います。これまでは、8年前の震災によって、家族が支え合い至近距離で生きていかなければいけないという困難や、それからの復興の槌音を遠距離で見えたりといった距離感が、今回はもう少し広がって、近距離から中距離のそれぞれの暮らしをじっくり見つめて歩んでいることが、スケッチや写真から強く浮かんできました。

まだまだ細かな復興が続いているなかで、そこに応募者の皆さんが気取らない形で、カメラやペンなり筆を向けているというのは、貴重な人間の記録で、大事な行為だと思っています。つまり、困難から立ち上がっていく途上に、我々人間が「表していく」ということは、それが歴史に直結していくことだと思います。そういうことを考えると、このコンテストは、非常に価値あることだと思っています。その中で、毎回参加されている方もいれば、新しく、自分の写真、自分の絵で表現してみようとする方もいて、少しずつ輪が広がっているような気がします。参加者全員が余すところなく、それぞれの「表したい」という気持ちを示している良い場だと思いました。

■ Eri NAKADA [Illustrator]

スケッチ部門は、例年以上に力強く、質の高い秀作が多かったと思います。応募数は、写真に比べると少ないものの、わざわざ道具を使い、時間をさいて描いた絵は、より思い入れが深いように感じました。その思い入れの深さのようなものが表現ができている作品が多くて、心に響くものが多かったです。今回は、三鉄やラグビー、イベントなどは写真の中にも結構あったと思います。お孫さんが三鉄の絵を描いて、さらにその様子をおじいちゃんが写真に撮っている作品がありましたが、ニュースで流れている「三鉄が開通した」ということだけではなく、その奥にある人々の生活など、写真やスケッチの作品を通して、もう一步深いところまで踏み込んだ復興の様子を知ることができた気がしました。報道されていないようなことをこのコンテストで教えてもらった気がしています。

全体的に、笑顔とか、日常生活の営みというような、リラックスしたムードの写真が増えたように思います。最初のころは、緊張感、祈り、鎮魂という言葉がふさわしかったと思いますが、年々、少しずつですが、復興が進んできて、今回はだいぶ明るい笑顔が増えたようなリラックスムードを感じられたことが、作品を拝見してうれしく思いました。

■ Osamu NISHIDA [Architect]

今回、東北らしい風景、東北の生活がうかがえる風景ということが応募要項の中にもあったからか、かなり日常的な作品が多くあり、復興が日常に近づいてきていることを示しているように感じました。今回の審査で印象的だったのは、作品が「復興の歩み」であるかどうかといった議論が起こったことで、写真技術を競うコンテストに応募するような作品があり、そこで日々生活している人たちが普通に写真コンテストに出すモチベーションで応募されている作品も多いということを示していると思います。それはある種、復興が次のステージに近づいてきている感じがします。

もう一つ印象的だったのは、お子さんの作品が最後の議論まで多く残っていたことです。彼らにしてみると、震災が起きたときはまだ実感がない年齢だったりもすると思いますが、それは、次の未来を考えていくときにも、着実に東北が進んでいる感じがして、それも踏まえて、今回は印象的な審査会だったと感じました。

受賞作品・応募作品の紹介



復興の歩み賞 池邊 このみ選

真っ直ぐ祈りに向かって 萩野谷 陽子

〔撮影場所〕 岩手県陸前高田市

嵩上げの大工事も終盤となり、現地には商業施設や住宅も建ち並び、徐々に街が戻ってきている。そんな中、祈りの施設もOPENして多くの方が訪れていた。将来また来るかもしれない津波に備えて築いた防潮堤までの一直線の道。水盤を超えて樹木が並んでおり、しばらく歩いてから階段を上りきれば海が見える。象徴的なシーンで何を思うか？今は穏やかな水面に、どうか悲劇を繰り返さないでと祈るばかりだった。

〔審査員コメント〕 池邊 このみ

陸前高田市に今年完成した震災復興祈念公園の作家の意図の一つを巧く構図に取り入れた秀逸な作品。水面に映る林立の陰も効果的である。防潮堤の向こうには、アイヌ語で『美しい浜』をあらわす『ピッコタ』から来たと言われる美しい広田湾が広がっている。祈念公園ではあるものの、地域の方々に愛される地域資産となることを祈りたい。



復興の歩み賞 大西 みつぐ選

大漁 パパの約束 門林 泰志郎

[撮影場所] 福島県いわき市

今年も復興のパワーを届ける為、小名浜港サンマ船が出漁。
全国に届け～。

[審査員コメント] 大西 みつぐ

「行ってきます!」、「早く帰ってきてね!」明るい会話が聞こえてくるような出漁風景。当たり前の日常は美しく、またかけがえのないものであることを語っています。左右等分の構成も自然で、手前から奥へと視線が穏やかにつながります。カメラはこうして私たちの日常の彩りも豊かに記録してくれるものだと改めて感じます。



復興の歩み賞 なかだ えり選

がんばれー！！ 宮野 文太

〔描いた場所〕 宮城県名取市

おとうさんのともだちが、なくなったぼうふうりんをもとどりにするために、まつのあかちゃんをうえて、すいろをつくっているところです。しょうらい、このまつのあかちゃんがおおきなまつのきになって、みんなのいのちをまもるようにねがっています。ながさきからもおうえんしています。がんばれー！

〔審査員コメント〕 なかだ えり

多くの応募作品から各地、それぞれの復興を教えてもらいましたが、名取の植樹のこともこの絵を通して知りました。近隣の松ぼっくりから苗を育て植えたものだそうです。作者は7歳のお子さんですが、苗を「あかちゃん」と言っているのがかわいらしい！防風林となるまで長く応援し、良い年月を積み重ねていけることを願っています。



復興の歩み賞 西田 司選

閉じゆく仮設商店街も復興の形

北野 慶

[描いた場所] 宮城県石巻市

石巻を訪れた時、閉鎖が決まっている復興商店街のお店のおばさんと立ち話をしました。辺りは商店街というよりキャンプとお祭りのような場所で、皆が持ち寄ったもので作られた空間が印象的でした。震災直後には人で溢れかえっていた客席を眺めながら、役目を終えた復興商店街についてちょっと寂しそうに語ってくれました。

[審査員コメント] 西田 司

閉鎖が決まっている復興商店街の風景。寂しそうだけど、どこか居心地も良さそうな構図で描かれており、復興の時期に多くの人に来ていた場所が、次のステージを迎えたことを表現している。時間軸をテーマにした絵としての完成度も高く、見た人が復興の時間に思いを馳せつつ、街の次の展開へも期待を抱かせる作品。



復興の歩み賞 UR 理事長選

喜びの海水浴（越喜来浪板海水浴場）

鈴木 緑
〔撮影場所〕 岩手県大船渡市

3年前大船渡の姉の家を訪れた際、どこの海水浴場も閉鎖されたまま。それどころか、恐ろしい津波の爪あとを感じさせる海岸を目の当たりにし、どれほどの威力だったのか改めて思い知らされました。今年、中学生になった娘と高学年になった息子を連れ家族で再び訪れたら、大船渡市内では3箇所の海水浴場がオープンしていました。規模は小さかったけれど、海で泳ぐカップル、海岸でスイカ割している家族や、散歩を楽しむ母子を見て、その平和な光景に涙が出ました。

UR 都市機構の理事長が選定した作品です。



復興の歩み賞 UR都市機構選

向こうへ 小野 詞誉

[描いた場所] 宮城県本吉郡南三陸町

今年の初日の出を見に、朝4時頃サンオーレ袖浜へ向かいました。少しして、昇ってきた陽が一気に町を照らしました。その瞬間が壮大で美しく、この景色を忘れたくなくて、この絵を描きました。陽に照らされて輝く海が一本の道のように見えて、また今年もこの町と共に復興へと歩んでいきたいと、景色を見ながら思いました。

UR都市機構の職員投票により最多得票を獲得した作品です。



キッズ・ジュニア賞

三陸鉄道 秋山 将之介

[描いた場所] 岩手県

ぼくは、電車が好きなので、いつか三陸鉄道に乗ってみたいと思っています。



キッズ・ジュニア賞

つむがれていく伝統 船山 凜

[撮影場所] 岩手県久慈市

母校の伝統的なおどりを後輩や身内がひきついでいくことへの喜びを感じ、この写真を撮りました。



入賞

日本一の朝市

市川 清一 [撮影場所] 青森県八戸市

館鼻岸壁は東日本大震災の津波によって被災しました。その時は大型の船が何隻も打ち上げられました。そこから急ピッチで復旧を遂げ今では全長800m、店舗は300以上もある日本一の館鼻岸壁朝市が毎週、日曜日、夜明けと同時に開催され毎週数万人の人出で賑わっています。まさに日本一の朝市です。



入賞

リアスに灯り戻る

雁部 正男 [撮影場所] 宮城県本吉郡南三陸町

南三陸町の田東山より気仙沼市方面を撮影しました。震災直後半島が真暗でした。今生活も戻り蛍光灯からLEDに変わり集落も明るくなったようだ。



入賞

祈りの折り鶴

小野 理恵 [撮影場所] 宮城県仙台市

仙台七夕にて。児童生徒らが東日本大震災からの復興を願って作った折り鶴を見て、涙がこぼれた。様々な想いが星に届きますように。



入賞

ああ、平和だなあ

三瓶 和樹 [撮影場所] 福島県西白河郡矢吹町

2歳の娘にお婆ちゃんが、震災の事を話していました。うんうんと聞いていた様子でしたが、産まれたばかりの卵に触った瞬間、そのあたたかさに驚き、震災の話は何処かに飛んで行ってしまったようでした。その後、確かめるように何度も触っていた時の一枚です。お婆ちゃんの震災の話で色々思い出していましたが、二人のやりとりを見て「ああ平和だなあ」としみじみ思いました。



入賞

全線開通おめでとう

野口 智子 [描いた場所] 岩手県宮古市、釜石市

全線開通でにぎわう三鉄内をスケッチ。テーブルを挟み偶然居合わせた2人+2人。旅行中の父と娘、地元のご夫婦。「どちらから？」会話がはずむ。外を見ながら語るおじいさんの声が静かに聞こえてくる。「笑顔をつなぐ、ずっと……。」笑顔・希望・夢……。いろいろずっとつないでいてほしい。



入賞

復興住宅

有田 勉 [撮影場所] 岩手県下閉伊郡山田町

今日は秋晴で住宅の人達は草むしりで全員外に出て、秋の日ざしをあびていた。仮設住宅とはくらべものにならなく最高の住み心地だそうです。私も4階に上げてもらったが素晴らしい眺めです。



入賞

歓喜の日

南 輝明 [撮影場所] 岩手県下閉伊郡山田町

震災の津波により流されてしまった織笠駅。新たな場所に移転し、8年ぶりに列車がやってきました。季節外れの雪が舞う中、列車が到着するのを町の皆さんと一緒に開通祝う旗を持って出迎えました。今秋の台風で再び不通になってしまいましたが、復旧した暁にはまた家族でお伺いしたいと思っています。



入賞

ぼくの三鉄

白間 正人 [撮影場所] 岩手県宮古市

8年前の津波で沿岸地域は被災にあい津軽石駅もかなりの被害をうけました。3月24日JRから三陸鉄道に変わり開業しました。7歳の少年は地元で走る汽車は見たことはありません。この子は家で試験運転を見てスケッチし、家族で津軽石駅の開業イベントに参加し、上りの1番の汽車がホームに入り自分が書いた車両と見比べていました。



入賞

悠久の桜

秋山 幸樹 [撮影場所] 宮城県柴田郡大河原町

あの震災の時を忘れず、この平和な時間がずっと続きますようお願いを込めて。



入賞

一瞬の切り取り

泉 まどか [撮影場所] 岩手県陸前高田市

「いわてTSUNAMIメモリアル」にて撮影した1枚です。海を望む高台から陸地側を写しました。視界を遮るものがない静かで自然が生き活きとした町。私の瞳には瞬間的に、過去が風化してしまいそうなくらい穏やかな風景に写りました。



入賞

ヨシ原と共に

三浦 明彦 [撮影場所] 宮城県石巻市

北上川ヨシ原は、東日本大震災の津波と地盤沈下により規模が半減したが、時の経過とともに地盤が隆起、そこに流域の人達の管理が入り、ここ2・3年で大きく回復した。このヨシは、茅葺き屋根の貴重な資料ということだけでなく、生態系の回復・維持、水の浄化作用にも貢献している。景観としても素晴らしく、地域の財産だ。



入賞

ありがとうの大漁旗とともに

木野田 博彦 [描いた場所] 岩手県釜石市

今年一番の明るい話題はラグビーWカップ。中でも釜石復興スタジアムでのフィジー、ウルグアイ戦は接戦の好試合であり、釜石の東北の人たちの温かいおもてなし、ありがとうの大漁旗には大感激しました。ここまでよくがんばって復興してきた東北の人たちに、こちらの方からありがとうの気持ちを届けたいと思い応募しました。



入賞

漁港の潮干狩り

カマタニ ヒサト [撮影場所] 岩手県久慈市

旧暦3月3日は大潮の大干潮。この日北三陸海岸では昔から潮干狩りが口開け(解禁)され、フノリ、イワノリ、マツモ等旬の海藻摘み。復旧した漁港の斜路も格好の漁場。



入賞

伝統の味を守る

藤島 純七 [撮影場所] 宮城県石巻市

仙台雑煮の材料として使われる「焼きハゼ」。東日本大震災で被災した漁師夫婦が2011年末に石巻長面浦で、製造を再開、伝統の味を守っている。

宮城



宮城県仙台市



宮城県仙台市



宮城県仙台市



宮城県仙台市



宮城県仙台市



宮城県牡鹿郡女川町



宮城県牡鹿郡女川町



宮城県本吉郡南三陸町



宮城県本吉郡南三陸町



宮城県本吉郡南三陸町



宮城県本吉郡南三陸町



宮城県仙台市



宮城県仙台市



宮城県仙台市



宮城県仙台市



宮城県仙台市



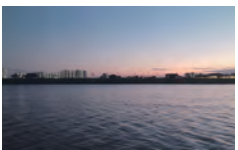
宮城県本吉郡南三陸町



宮城県本吉郡南三陸町



宮城県名取市



宮城県名取市



宮城県名取市



宮城県名取市



宮城県仙台市



宮城県仙台市



宮城県仙台市



宮城県気仙沼市



宮城県気仙沼市



宮城県気仙沼市



宮城県名取市



宮城県亶理郡山元町



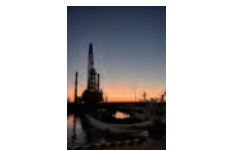
宮城県亶理郡山元町



宮城県亶理郡山元町



宮城県亶理郡山元町



宮城県亶理郡山元町



宮城県気仙沼市



宮城県気仙沼市



宮城県気仙沼市



宮城県気仙沼市



宮城県気仙沼市



宮城県気仙沼市



宮城県亶理郡山元町



宮城県宮城郡七ヶ浜町



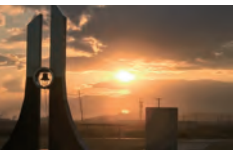
宮城県宮城郡七ヶ浜町



宮城県宮城郡利府町



宮城県柴田郡柴田町



宮城県岩沼市



宮城県気仙沼市



宮城県気仙沼市



宮城県石巻市



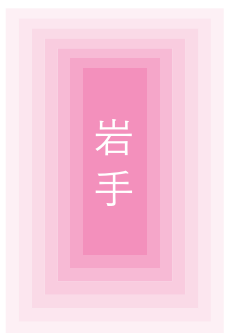
宮城県石巻市



宮城県石巻市



宮城県石巻市



岩手



岩手県九戸郡野田村



岩手県久慈市



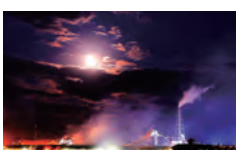
岩手県久慈市



岩手県久慈市



岩手県久慈市



宮城県石巻市



宮城県石巻市



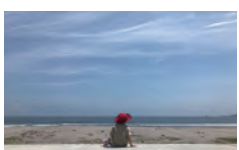
宮城県石巻市



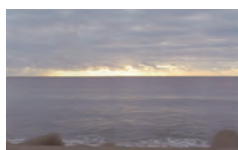
宮城県石巻市



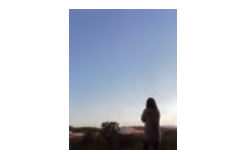
宮城県石巻市



宮城県東松島市



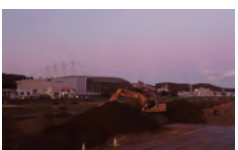
岩手県久慈市



岩手県久慈市



岩手県久慈市



岩手県久慈市



岩手県久慈市



岩手県釜石市



宮城県東松島市



宮城県東松島市



宮城県東松島市



宮城県東松島市



宮城県東松島市



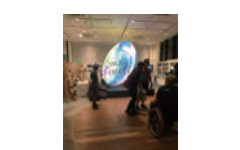
宮城県東松島市



岩手県釜石市



岩手県釜石市



岩手県釜石市



岩手県釜石市



岩手県釜石市



岩手県釜石市



宮城県宮城郡松島町



宮城県宮城郡松島町



宮城県牡鹿郡女川町



宮城県牡鹿郡女川町



宮城県牡鹿郡女川町



宮城県牡鹿郡女川町



岩手県釜石市

岩手県釜石市

岩手県釜石市

岩手県宮古市

岩手県宮古市

岩手県宮古市

福島県いわき市

福島県いわき市

福島県いわき市

福島県会津若松市

福島県会津若松市

福島県会津若松市

岩手県宮古市

岩手県宮古市

岩手県宮古市

岩手県宮古市

岩手県宮古市

岩手県陸前高田市

福島県双葉郡広野町・檜葉町

福島県双葉郡檜葉町

福島県双葉郡檜葉町

福島県双葉郡檜葉町

福島県双葉郡富岡町

福島県双葉郡富岡町

岩手県陸前高田市

岩手県陸前高田市

岩手県陸前高田市

岩手県陸前高田市

岩手県陸前高田市

岩手県上閉伊郡大槌町

福島県双葉郡富岡町

福島県双葉郡富岡町

福島県白河市

福島県白河市

福島県白河市

福島県白河市

岩手県上閉伊郡大槌町

岩手県上閉伊郡大槌町

岩手県上閉伊郡大槌町

岩手県上閉伊郡大槌町

岩手県上閉伊郡大槌町

岩手県下閉伊郡山田町

福島県双葉郡浪江町

福島県双葉郡浪江町

福島県双葉郡富岡町

福島県福島市

福島県福島市

福島県福島市

岩手県下閉伊郡山田町

岩手県下閉伊郡山田町

岩手県下閉伊郡田野村

岩手県下閉伊郡岩泉町

岩手県大船渡市

岩手県大船渡市

福島県相馬市

福島県相馬市

福島県南相馬市

福島県南相馬市

福島県相馬郡新地町

福島県田村市

岩手県九戸郡野田村

岩手県盛岡市

岩手県北上市

福島

福島県いわき市

福島県いわき市

福島県二本松市

福島県

福島県郡山市

福島県郡山市

福島県伊達市

福島県浜通り

岩手県九戸郡洋野町

岩手県一関市



福島県いわき市

福島県いわき市

その他

青森県八戸市

青森県八戸市

青森県八戸市

青森県つがる市

青森県黒石市

福島県いわき市

福島県いわき市

福島県いわき市

福島県いわき市

福島県いわき市

福島県いわき市

青森県上北郡野辺地町

三重県四日市市

栃木県

茨城県ひたちなか市

栗駒山 岩手県一関市/宮城県栗原市
秋田県湯沢市・雄勝郡東成瀬村



Mitsugu OHNISHI

Osamu NISHIDA

Konomi IKEBE

Eri NAKADA



審査の風景



大賞 復興の歩み大賞
応援旗にメッセージ

池邊 このみ

釜石市でラグビーワールドカップの試合があったことは、東北の人たちにとってすごく大きなイベントでした。

この作品は、応援イベントの後に来場者が、応援旗に「がんばって」というメッセージを書いていること自体がすばらしくて、そのことに心を打たれたことを描いた作品だと思います。

この作品は誰もが認める。最初に見たときから心を打たれました。圧巻の作品ですよ。

なかだ えり

このスケッチは、圧巻でした。力があり質が高い。審査員全員が、他の作品を大きく引き離して選びました。イラストが大賞になるのはめずらしいことでうれしく思います。



復興の歩み賞 池邊 このみ 選
真っ直ぐ祈りに向かって

池邊 このみ

設計士の意図を上手く取り入れた秀逸な作品で、水面に映る林立の陰が効果的です。

大西 みつぐ

撮り方として、実は案外難しいですね。ワイドレンズですと、少しゆがんで写ってしまう。当然、このゆがみを直すことも後からできますが、この作品は、直さず応募されています。

なかだ えり

フレームを入れると見栄えがする気がしますが、技術的には簡単ではないのですね。シンメトリーな構図に、静寂と美しさを感じます。

大西 みつぐ

そうです。フレームを入れると難しくなります。例えば、地面に少しトーンが出ていますが、真っ黒にすることもできるわけです。トリミングすることもできるし、いろいろなことができるでしょうけれども、あえてそのまま応募されています。



復興の歩み賞 大西 みつぐ 選
大漁 パパの約束

大西 みつぐ

今回は「東北のいま」ということで、

ストレートな市民生活を記録として捉えてほしいという希望がありました。この作品のように生活感がある写真は、ものすごく強いイメージを持っているんですね。一歩踏み込んで撮っており、画面がしっかり成り立っています。



池邊 このみ

中央に映っている男性が本当に「パパ」っていう顔をしていて、これがなんとも言えず素晴らしいですね。

大西 みつぐ

そうなんですよ。そっけない顔をしていたら、ちょっと嫌なんですけど、お母さんの顔がすこし見えているところもよいですね。

池邊 このみ

笑っていてね。

西田 司

福島の今がわかる作品ですね。

池邊 このみ

そうですね。いわきの小名浜港ですから、とても良い作品ですよ。



復興の歩み賞 なかだ えり 選
がんばれー!!

池邊 このみ

7歳のおさんが緑化のことをテーマにして描いてくれたことがとてもうれしく思います。

西田 司

コメントがすごく良いですね。

なかだ えり

平仮名で書いてあるのがかわいらしいです。

池邊 このみ

「赤ちゃんの木が大きくなってみんなを守るんだ」といったコメントから、木が災害からまちを守ってくれることが親から子へきちんと伝わっていることもこのスケッチから伝わってきます。



復興の歩み賞 西田 司 選
閉じゆく仮設商店街も復興の形

西田 司

閉じ行く復興商店街が、寂しく感じますが、復興の兆しも同時に感じられる作品ですね。

池邊 このみ

復興の一場面で閉店するといったところにも焦点を当てていて、半分明く捉えていることもすごく印象に残りました。

フォト & スケッチコンテストの実施につきまして、
応募者の皆様及びご協力いただいた皆様に、深くお礼申し上げます。

<https://www.ur-net.go.jp/saigai/>

企画・発行 独立行政法人都市再生機構 震災復興支援室 企画課
〒231-8315 神奈川県横浜市中区本町6-50-1 横浜アイランドタワー

制作 株式会社URリンクージ 都市・居住本部 まち・すまい調査部

2020年 3月

※本誌の写真および内容を無断で複写・転載することを禁じます。